

総務文教常任委員会 行政視察報告書

1 日程

令和4年9月27日（火）

2 視察先・視察内容

内子町立学校給食センター 学校給食について

3 視察委員

○委員長 向井 一富
○副委員長 塩川 まゆみ
○委員 寺岡 保
山崎 正史
林 博
菊地 幸雄
関根 律之



4 視察報告

＜職員体制＞

	所長	栄養教諭	事務職員	調理員	運転手	合計
内子学校給食センター	1名	1名	1名	14名	3名	20名
小田学校給食センター	-	1名	1名	6名	2名	10名

＜食材の配食数＞

内子学校給食センター

（単位：名）

小学校				中学校				幼稚園・給食センター			
学校名	児童	教職員	計	学校名	生徒	教職員	計	学校名	園児	教職員	計
内子	316	36	352	内子	183	24	207	内子幼稚	24	6	30
立川	19	9	28	五十崎	109	16	125	給食C	-	17	17
石畳	9	5	14	計	292	40	332	計	24	23	47
天神	175	20	195					合計	921	149	1,070
五十崎	86	16	102								
計	605	86	691								

小田学校給食センター

(単位:名)

小学校				中学校				幼稚園・給食センター			
学校名	児童	教職員	計	学校名	生徒	教職員	計	学校名	園児	教職員	計
小 田	39	10	49	小 田	23	11	34	小田幼稚	10	3	13
大 瀬	48	14	62	大 瀬	18	10	28	給食C	-	6	6
計	87	24	111	計	41	21	62	小田分校	34	1	35
								計	44	10	54
								合計	172	55	227

朝、あいにくの大雨と雷で内子分庁の前の電柱に落雷するなど、荒天候の中の研修になった。

内子給食センターにおいて、内子給食センター所長、小田給食センター所長、教育長、学校教育課長、栄養士から現状のセンターの業務内容を細かく説明、その後、質疑応答、試食の流れで現地研修を終えた。その後、午後からは内子分庁において給食行政全般の研修を行った。

学校給食センターの設備、作業部屋ごとの機能、衛生管理、給食員の配置分担等規則正しく厳密に行われていた。人員は内子給食センター20名、小田給食センター10名で運営され、作業環境はエアコン設置、スポットクーラー設置によって改善されているが、運転開始から23年たつので施設の老朽化等により、一部改善の余地も残している。その点については、理事者側も職員の声をよく聞いて、より働きやすい環境を保ち、安全安心、また、子どもたちが心身ともに健全に育つような給食の提供に努めてほしいと要望した。

配食総数は、内子給食センターが1,070食で、小田給食センターが227食とのことである。食品アレルギー対策については、子供たちの状況を聞き取り、食材の変更、調理器具やスペースを分離しての除去食や代替え食の提供により、安心を担保出来ているとのこと。

地産地消の取り組みについては、米は100%内子産で賄っており、野菜についても内子給食センターでは60%、小田給食センターでは65%と地産地消の取り組みにも努力されていて、令和6年度には70%を目指すとのことである。

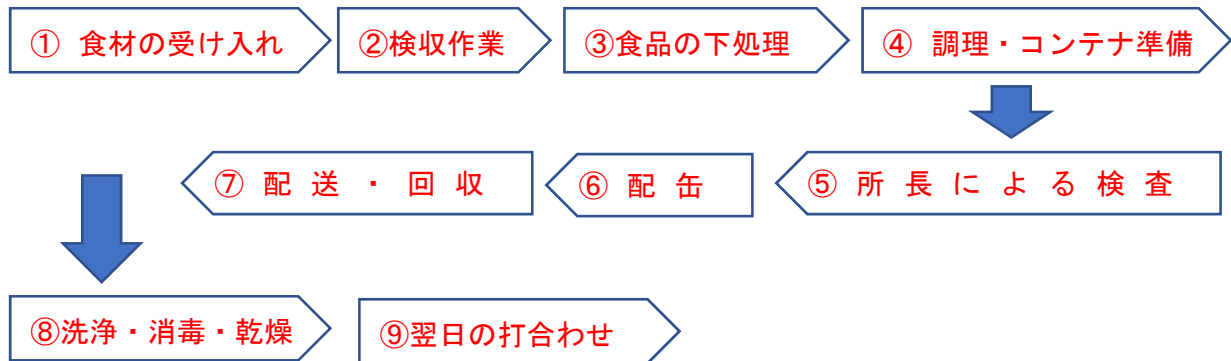


当日試食した給食メニューは、白いご飯にカラフルかき揚げ、キャベツの和辛子梅昆布和え、赤だし味噌汁、牛乳だった。いかにも内子産の食材タップリでとてもおいしくて腹持ちもよく、まさに家庭の味がした。

残食は、内子センターで年間１８９キロ、小田で２８キロであった。

調理員は、体調管理、細菌検査、日頃食べてはいけないものがあるとか、厳しい規制の下で給食づくりに取り組み、子供たちがどうしたら喜んで食べてくれるか、健全育成にいかに関与していくかと、いつも頭に描きながら作業に当たっているとのこと。

<学校給食センター業務の流れ>



質疑応答(抜粋)

問 小田と内子のメニューは違うのか。

答 それぞれに栄養士が配置されていてメニューは違う。

問 地産割合は金額ベース、カロリーベース、重量ベースか。

答 重量ベースである。

問 学年で分量の調整はあるのか。

答 学年単位で調整している。

問 給食費の無償化は。

答 現在のところは考えてない。

問 調理員の確保は十分か。

答 先般補充の為の募集をして現在は足りている

その他の質問として、

- ・ジビエの導入は。
- ・食品添加物の影響の学習などはしているか。
- ・食材価格の見積もりは。
- ・給与は適正か。
- ・調理員の意見に耳を傾けているか。

・納入業者への支払い状況は。

など活発に出て、有意義な実のある研修となった。今後も物価高騰のあおりを受けて大変な経営になるとは考えるが、保護者の負担を増やすことなく未来を担っていく子供たちの健全育成の一端をしっかりと担って欲しい。